

“県民みんなの財産である熊本の森林を次の世代へ”

# 「熊本県水とみどりの森づくり税」事業に関する 実績報告書

令和2年度（2020年度）



熊本県農林水産部



## 目 次

### I 水とみどりの森づくり税事業の実績（令和2年度（2020年度））

- 1 はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- 2 事業費・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- 3 事業量等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
  - (1) 県民の安全安心を守り、次世代につなぐ森づくり
  - (2) 県民全体で森に触れ、親しみ、支え、森の恵みを活かす意識づくり

### II 令和2年度（2020年度）に実施した事業

#### 1 県民の安全安心を守り、次世代につなぐ森づくり

- (1) 防災・減災・景観保全森林整備事業・・・・・・・・・・・・ 10
- (2) 花粉の少ないスギ苗木生産拡大事業・・・・・・・・・・・・ 11
- (3) 次世代につなぐ森林づくり事業・・・・・・・・・・・・・・ 12
- (4) 主伐・植栽一貫作業システム支援事業・・・・・・・・・・・・ 13
- (5) シカ森林被害防止対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
  - ①シカ森林被害防止事業
  - ②シカによる森林被害調査・地域対策支援事業
- (6) 特定鳥獣適正管理事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
- (7) 伐採適正化推進事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
- (8) 試験調査事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
  - ①センダンの短伐期施業を目的とした系統選抜と施業技術に関する研究
  - ②シカ生息モニタリング調査技術の活用に関する研究
  - ③シャカインの雄花着花性に関する研究
- (9) 林業研究グループ等育成対策事業・・・・・・・・・・・・・・ 22
- (10) くまもと林業大学校人財づくり事業（公開講座）・・・・ 23
- (11) 地域の森を育てる担い手育成支援事業・・・・・・・・・・・・ 24

#### 2 県民全体で森に触れ、親しみ、支え、森の恵みを活かす意識づくり

- (1) 県民の未来につなぐ森づくり事業・・・・・・・・・・・・・・ 25
- (2) 県民の森林づくり緊急整備事業・・・・・・・・・・・・・・ 31
- (3) 漁民の森づくり事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32
- (4) 水とみどりの森づくり税PR事業・・・・・・・・・・・・・・ 33
- (5) くまもとの木と親しむ環境推進事業・・・・・・・・・・・・ 34
- (6) 木を活かした景観づくり支援事業・・・・・・・・・・・・・・ 37
- (7) 特用林産物流通促進事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38



I 水とみどりの森づくり税事業の実績  
(令和2年度(2020年度))

# 1 はじめに

## (1) 水とみどりの森づくり税とは

熊本県では、県民共有の財産として健全な森林を守り育て、私たちが享受する多くの恵みを次の世代へ引き継いでいくために、平成17年(2005年)3月に「熊本県水とみどりの森づくり税条例」を制定し、広く県民の皆さま(個人から500円と法人から資本金に応じて1,000円から40,000円)に負担いただき、森林の公益的機能の維持・増進を図るための様々な施策に取り組んでいます。

## (2) これまでの取組み

これまで、主に次のような取組みを行ってきました。

### ○第1～2期(2005～2014年度)

- ・森林の公益的機能の発揮に向けた取組み
- ・県民参加の森林づくりを推進するための普及啓発に向けた取組み

### ○第3期(2015～2019年度)

- ・水源かん養機能などを発揮するための森林づくり
- ・森林の重要性を伝え、森林を守り育てるための担い手の育成
- ・森林や木材を活かした地域・景観づくり

## (3) これまでの取組みによる成果

これまでの取組みで、次のような効果が生まれています。



#### (4) これからの取組み

平成 17 年(2005 年)の税導入以降、自然災害の発生や地球温暖化対策への要請、森林経営をめぐる環境の変化をふまえて、森林の公益的機能の維持・増進を通じて県民の皆さまの安全安心を実現していくために、第 4 期(2020～2024 年度)では、次の 2 つの柱と 5 つの視点に沿って様々な事業を推進しています。

I. 県民の安全安心を守り、次世代につなぐ森づくり	
①	「県民の安全安心を守る森づくり」 間伐などの適切な森林整備を促進することで、災害に強い森林づくりなどを推進します。
②	「次世代につなぐ熊本の森づくり」 水を蓄え災害や温暖化を防ぐ豊かな森林を次の世代に引き継いでいくため、伐採後の再生林や鳥獣対策などを強化します。
③	「森づくりを進めるための基盤づくり」 森づくりの基盤となる、地域の森林を守り育てる人材の育成や、健全な森林を育成するための調査研究などを推進します。
II. 県民全体で森に触れ、親しみ、支え、森の恵みを活かす意識づくり	
④	「森に触れ、親しみ、みんなで支える意識づくり」 森林の果たしている役割を県民の皆さまに理解していただくため、体験型事業や普及啓発活動などを推進します。
⑤	「森の恵みを活かす意識づくり」 木材やキノコなどの森の恵みの積極的な活用を推進することで、森林資源の循環利用への理解を促進します。

#### (5) 第 4 期・初年度（2020 年度）の取組み状況について

今回、第 4 期(2020～2024 年度)の初年度となる 2020 年度の取組みの実績についてご報告します。

## 2 事業費

令和2年度（2020年度）は、総額488,793千円の税を活用しました。

（単位：千円）

施策（事業）	水森税充当額
<b>1 県民の安全安心を守り、次世代につなぐ森づくり</b>	<b>387,599</b>
防災・減災・景観保全森林整備事業	151,456
花粉の少ないスギ苗木生産拡大事業（※1）	8,911
次世代につなぐ森林づくり事業（※2）（※4）	159,215
主伐・植栽一貫作業システム支援事業（※4）	1,782
シカ森林被害防止事業（※3）（※4）	6,140
シカによる森林被害調査・地域対策支援事業	11,155
特定鳥獣適正管理事業	16,753
伐採適正化推進事業	4,602
試験調査事業	
センダンの短伐期施業を目的とした系統選抜と施業技術に関する研究	2,628
シカ生息モニタリング調査技術の活用に関する研究	2,621
シャカインの雄花着花性に関する研究	2,177
林業研究グループ等育成対策事業	6,185
くまもと林業大学校人財づくり事業（公開講座）	280
地域の森を育てる担い手育成支援事業	13,694
<b>2 県民全体で森に触れ、親しみ、支え、森の恵みを活かす意識づくり</b>	<b>101,194</b>
県民の未来につなぐ森づくり事業	54,061
県民の森林づくり緊急整備事業（※4）	84
漁民の森づくり事業	14,896
水とみどりの森づくり税PR事業	1,972
くまもとの木と親しむ環境推進事業	19,303
木を活かした景観づくり支援事業	10,581
特用林産物流通促進事業	297
<b>合 計</b>	<b>488,793</b>

（※1）令和元年度繰越分 167千円を含む。

（※2）令和元年度繰越分 152,789千円を含む。

（※3）令和元年度繰越分 3,523千円を含む。

（※4）令和3年度への繰越あり（計175,172千円）。



### 3 事業量等

#### (1) 県民の安全安心を守り、次世代につなぐ森づくり

事業名	主な実施内容	事業量
防災・減災・景観保全森林整備事業	流木発生抑制のため溪流沿い等の森林で強度間伐と、ライフライン保全のための道路沿線の森林整備	418ha
花粉の少ないスギ苗木生産拡大事業	花粉症対策品種等のスギ苗木供給に向け品種・系統が明確な優良苗木生産のための採穂園の造成等	1.29ha
次世代につなぐ森林づくり事業	伐採跡地の再造林や広葉樹林への転換及び確実な更新を推進	475ha
主伐・植栽一貫作業システム支援事業	再造林経費の低コスト化につながる一貫作業システムを支援し、主伐後の再造林を促進	13ha
シカ森林被害防止事業	シカによる森林被害を防止するための施設の設置及び維持修繕	5,062m (修繕)
シカによる森林被害調査・地域対策支援事業	シカによる人工林の被害面積を推定するためのプロット調査を実施	515プロット
特定鳥獣適正管理事業	シカを適性密度に誘導するため有害鳥獣捕獲を促進	16,753頭
伐採適正化推進事業	森林法に基づく適正な伐採及び造林を推進するための現地伐採箇所の調査	一式
試験調査事業		
センダンの短伐期施業を目的とした系統選抜と施業技術に関する研究	センダンの伐期短縮化のための優良系統の選抜・増殖と直径成長を促進するための施業技術の開発	一式
シカ生息モニタリング調査技術の活用に関する研究	シカの生息密度を精度よく推定する手法の検討	一式
シャカインの雄花着花性に関する研究	花粉の少ないスギに関する基礎研究	一式
林業研究グループ等育成対策事業	山村を支える新たな担い手や地域リーダーの発掘・育成	基礎講座20名 指導者養成講座5名
くまもと林業大学校人財づくり事業（公開講座）	森林・林業に関心を持つ方に向けた公開講座を実施	延べ24名
地域の森を育てる担い手育成支援事業	自伐林家等の森づくり計画作成や林業機械導入等に対する助成	森づくり計画 3地区 林業機械助成 4地区

(2) 県民全体で森に触れ、親しみ、支え、森の恵みを活かす意識づくり

事業名	主な実施内容	事業量
県民の未来につなぐ森づくり事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民団体等の森づくり活動支援</li> <li>・森林公園の整備・活用支援</li> <li>・立田山森林教室や自然観察会等の実施及び森林インストラクターの養成等</li> <li>・森林ボランティア等の活動支援</li> </ul>	24団体 12団体 延べ655人参加 5人修了 現地指導1回 報告交流会5回など
県民の森林づくり緊急整備事業	森と親しむための森林公園の環境整備	2箇所
漁民の森づくり事業	植栽、下草刈りの実施 流木除去等の海岸清掃の実施	13ha 50km <sup>2</sup>
水とみどりの森づくり税PR事業	税制度の周知啓発 ・新聞広告掲載、PR活動	新聞広告 主要5紙1回
くまもとの木と親しむ環境推進事業		
くまもとの木製遊具推進事業	木製遊具・積み木の貸出 木育プログラムの実施	延べ38回 3回
木とともに育つ環境整備事業	保育所等が机・椅子等の木製品を購入する経費の一部を助成	23施設
くまもとの木で育む教育推進事業	小学5年生社会科用及び中学技術・家庭科用副読本を作成、配布 木育インストラクターの認定 木育のつどいの実施	小5 約18,000人 中1 約18,000人 認定者31人 参加者51人
くまもとの木とふれあう木育推進事業	木育活動を行う団体等の活動する経費の一部を助成	12団体
木を活かした景観づくり事業	県産木材を使用した標識設置等による景観形成	6市町 13団体
特用林産物流通促進事業	森の恵み(特用林産物)の普及促進	41箇所

## Ⅱ 令和2年度（2020年度）に実施した事業

## 1 県民の安全安心を守り、次世代につなぐ森づくり

水を蓄え災害を防ぐことができる元気な森林を維持するため、手入れの行き届いていない人工林を自然林に近い状態へ誘導する施策や、伐採後の再造林支援、シカによる森林被害防止、地域の森林を守り育てる人材育成などの取組みなどを行っています。

### (1) 防災・減災・景観保全森林整備事業

森林の公益的機能が維持されるには、適切な管理と整備が必要です。しかし、長引く木材価格の低迷や山村経済の疲弊、人口減少等による担い手の不足などにより、管理が行き届かない森林が増加しています。

この事業では、森林所有者による適切な管理や整備が困難な人工林について、強度（本数で40%程度）の間伐を行い、立木に適度な間隔を持たせて森林への日光の入りを良くし、広葉樹等の下層植生の生育を促して、針葉樹と広葉樹が混ざった自然に近い森林に誘導しています。また、間伐木を安全な場所に移動集積することにより、流木災害も含めた山地災害防止等の公益的機能を高度に発揮できる、健全な森林の育成を図っています。

#### ○令和2年度（2020年度）の実績

間伐実施面積	事業を実施した市町村数	実績額
418ha	23市町村	151,456千円



間伐前の真っ暗な森林



強度の間伐後



将来イメージ

## **(2) 花粉の少ないスギ苗木生産拡大事業**

スギは材として優れている一方で、花粉症でお困りの方も少なくないことから、花粉量が従来よりも少ないなどの特性に優れた品種の苗木が求められています。

そこで、この事業では、花粉症対策につながるよう品種や系統が明確な優良苗木を生産して広く供給していくために、採穂に必要な経費を支援しています。また、初期の成長に優れ林業の低コスト化につながるエリートツリーの普及のための試験等を行っています。

### **○令和2年度（2020年度）の実績**

内容	実績量	実績額（※）
スギ採穂園の造成	0.29ha	455 千円
エリートツリー実証林造成等	1.00ha	8,456 千円

（※）令和元年度（2019年度）からの繰越額：167 千円を含む。



採穂園造成

### (3) 次世代につなぐ森林づくり事業

森林の木を全部伐った後に適切に再造林を行えば、循環利用が可能な森林を次の世代に引き継ぐことができるとともに、災害防止や水源かん養などの公益的機能の維持が図られます。しかし、林業の採算性悪化など経済上の理由などにより、再造林が行われず放置される場合があります。

この事業では、伐採後の再造林が確実に行われるよう、必要な経費の一部（苗木代等）を支援し、伐採跡地の確実な更新を推進しています。また、植栽木の確実な生育を確保するため、ネットやシェルターなどのシカ食害防止施設設置等の支援を行っています。

#### ○令和2度（2020年度）の実績

内容	実績量	実績額 (※)
植栽に要する苗木代の一部助成	461.09ha	42,819千円
広葉樹植栽経費の一部助成	13.94ha	2,817千円
シカ食害防止施設設置への助成	ネット:182,922m ツリーシェルター:6.48ha	63,082千円 3,883千円
保育支援	891.19ha	45,474千円
侵入竹の除去	4ha	1,140千円

(※) 令和元年度（2019年度）からの繰越額 152,789千円を含む。

令和3年度（2021年度）への繰越額：148,051千円あり。



再造林



シカ被害防止柵



侵入竹

#### **(4) 主伐・植栽一貫作業システム支援事業**

成熟期を迎えたスギ・ヒノキが本格的な利用期を迎える中、森林資源を循環利用して公益的機能を維持増進するため、主伐後の再造林を行っていく必要があります。

しかし一方で、主伐後の植栽から保育に要する育林経費は森林所有者の負担も少なくないことから、再造林が適切に行われぬおそれがあります。

そこで、この事業では、確実な再造林を促すため、主伐と再造林の作業を一緒に行うことで、再造林における低コスト化につながる一貫作業システムの支援を行っています。

#### **○令和2年度（2020年度）の実績**

内容	実績量	実績額
一貫作業システムによる再造林	13ha	1,782千円

(※) 令和3年度（2021年度）への繰越額：17,146千円あり。



機械による地拵え



フォワーダによる苗木運搬



コンテナ苗の植栽

## (5) シカ森林被害防止対策

### ①シカ森林被害防止事業

ニホンジカ（以下「シカ」）が生息する地域では、侵入防護柵等により造林地を保護しないと、植栽木が食害を受けて生育できなくなります。しかし、侵入防護柵等の設置には高額な経費を必要とし、森林所有者の負担を増大させるため、森林の適正な利用や再造林に支障をきたしています。

そのため、この事業では、森林の健全な育成を図り、公益的機能の維持増進を目的として、侵入防止柵等の設置に要する経費の一部を助成しています。

また、既に設置した侵入防止柵等の維持修繕に要する経費や、シカが樹皮を剥がす被害を防止する資材の経費、シカの誘引捕獲を実施する場合の経費についても、その一部を助成しています。

### ○ 令和2年度（2020年度）の実績

内容	実績量	実績額（※）
剥皮被害防止資材の設置	10.66ha	1,772千円
侵入防止柵等の維持修繕	5,062m	4,368千円

（※）令和元年度（2019年度）からの繰越：3,523千円を含む。

令和3年度（2021年度）への繰越額：3,067千円あり。

### ②シカによる森林被害調査・地域対策支援事業

#### ア) シカ森林被害調査事業

シカによる人工林の被害については、その状況を把握し、効果的な防除や捕獲対策を実施する必要があります。そのため、この事業では、全県でスギ・ヒノキの人工林515地点に調査プロットを設定し、定点観測によるモニタリング調査を実施しています。

その結果によると、人工林におけるシカ被害発生推定面積は、毎年1,000ha程度で推移しています。

#### ○年度別シカ被害発生推定面積（H21～R2）

（単位：ha）

区分	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
新規被害面積	1,028	924	789	922	758	1,413	875	1,010	870	947	819	891
累計被害面積	21,068	21,992	22,781	23,703	24,461	25,874	26,749	27,759	28,629	29,576	30,395	31,286

#### ○地域別シカ被害発生推定面積

（単位：ha）

振興局	熊本	宇城	玉名	鹿本	菊池	阿蘇	上益城	八代	芦北	球磨	天草	合計
H29	0	82	0	0	7	165	221	81	140	174	0	870
H30	12	32	0	0	9	196	158	107	149	284	0	947
R1	46	19	0	0	0	199	88	17	390	60	0	819
R2	12	5	0	0	19	185	22	6	271	371	0	891





植栽木の食被害



スギ、ヒキ人工林の剥皮被害



プロット調査

## イ) シカ地域対策支援事業 (R2～)

地域協議会が行う、情報共有等検討会や地域独自のシカ被害対策等に対して支援しています。令和2年度(2020年度)は次の2団体に支援を実施しました。

### (i) やつしろの山づくり推進協議会の主な取組み

- ・ 捕獲技術向上のためのセミナー、技術講習会等の開催
- ・ 赤外線カメラ搭載ドローンによるシカ生態調査
- ・ ICTセンサーカメラを活用した捕獲技術向上及び見回り労力の軽減
- ・ 地元高校と連携した、シカ被害対策を通じたSDGsの推進  
(八代農業泉分校、八代工業高校、八代高校、芦北高校、南稜高校)

### 《取組みの成果》

- ・ 林業者の意識の改革と行動 → シカ被害を自分事とし、捕獲へのチャレンジ意識を向上
- ・ ICT機器を使用(見える化) → 捕獲の効率化とモチベーションを維持



くくり罠技術講習会



赤外線ドローン撮影



箱罠設置研修(泉分校)

(ii) 山鹿市被害防止対策協議会の主な取組み

- ・くくり罠設置講習会及びシカが捕獲された時の電気止め刺し機の使い方等を協議会員、地元猟友会員、林業者及び行政関係者等を対象に実施。
- ・協議会構成員、行政関係者を対象に鳥獣被害に対して先進的な取り組みを実施している地域（くまもと農家ハンター、宇城市三角町）へ視察研修を実施。

《取組みの成果》

- ・イノシシやシカ等を効率的に捕獲する方法や、捕獲後の有効な処理方法等の知識を習得



くくり罠技術講習会



先進地視察研修会

## **(6) 特定鳥獣適正管理事業**

この事業では、シカを適正頭数に誘導するため、有害鳥獣捕獲によってニホンジカを捕獲した者に対する市町村の報奨金（国、県、市町村併せて1頭当たりおおむね9,000円以上）について、その経費の一部（1頭当たり1,000円以内）を補助しています。

### **○令和2年度（2020年度）の実績**

事業内容		実績額
有害鳥獣捕獲	30市町村 16,753頭	16,753千円



## (7) 伐採適正化推進事業

森林資源の成熟化に伴い県内の伐採箇所は増加しており、不適切な伐採箇所や無届による伐採箇所、未植栽箇所の増加が懸念されています。

この事業では、これらの伐採行為等の未然防止を図り、森林法第10条の8に基づく伐採及び伐採後の造林の届出による適正な伐採及び造林を推進し、森林の公益的機能の維持・増進を図っています。

### ○令和2年度（2020年度）の実績

内容	実績
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 森林法第10条の8に基づく「伐採及び伐採後の造林の届出」がなされた箇所等の現地調査に係る要領の作成及び現地調査の実施</li><li>・ 衛星画像を用いた伐採地の抽出</li></ul>	伐採箇所の現地調査に必要な体制の構築により、監視体制の強化が図られ、適正な伐採及び造林を推進



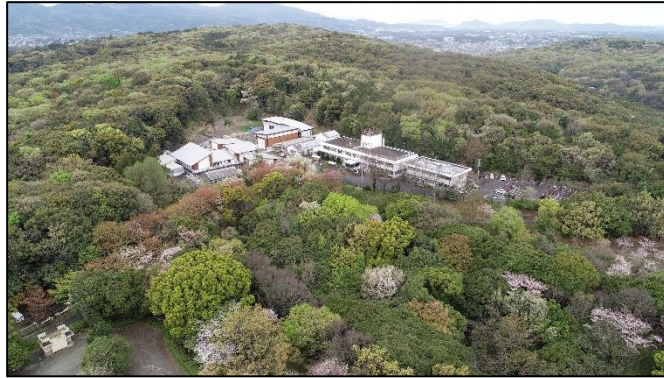
現地調査の状況



衛星画像による伐採箇所の抽出状況

## **(8) 試験調査事業**

この事業では、多様で豊かな森林の造成・管理・保全を推進し、森林の公益的機能の維持増進を図るため、水とみどりの森づくり税を活用して、さまざまなテーマで調査研究を行っています。



実施機関：熊本県林業研究・研修センター

### **① センダンの短伐期施業を目的とした系統選抜と施業技術に関する研究**

熊本県では、家具材や内装材など、用材生産を目的とした短い伐期（植栽から伐採までの期間）で収穫が可能な樹種として、センダン林の造成を進めています。

センダンの伐期のさらなる短縮化に向け、次の試験研究に取り組みました。

ア) 成長が早い優良系統の追加選抜

九州地域内のセンダン大径木(写真1)から枝を採取し、つぎ木による採種用クローン苗を育成しています。令和2年度(2020年度)は宮崎県内で胸高直径が2mを超える大径木など3本を選抜しました。

イ) 直径成長を促進するための施業試験

伐採までの期間の更なる短縮を目指し、家具材に利用が可能な長さ 2.0m の直材の生産ができるように技術的な試験を実施しました。また、直径成長の促進を目的に下枝よりも上部の幹を切る「断幹」試験を行いました。(写真2)



写真1 センダン大径木（宮崎県小林市）  
※写真は協力機関である林木育種センター九州育種場提供



写真2 センダン断幹試験（4年生時：甲佐町）



## ② シカ生息モニタリング調査技術の活用に関する研究

シカの生息数増加や生息域の拡大により、山に植えた植栽木の食害や樹皮を剥がされるなどの被害が増えています。シカによる森林被害を減らすための捕獲には生息状況等の把握が重要であることから、水俣市湯出及び猿渡地域で簡易的な3つの調査手法の有効性を検証しました。

### ア) 空中センサス

日中、赤外線カメラを搭載したドローンで森林上空から撮影し、シカの行動を把握する方法です。日中のシカの識別が可能であることが分かりましたが、森林により通信が遮断されるなどの課題が残りました。

### イ) ライトセンサス

夜間、トラックからスポットライトで林内を照らし、目撃したシカの頭数を調査する方法です。シカの見撃地点は直近の生息範囲に近いと考えられるため、短期に集中してわなによる捕獲を実施する場合に活用が見込めます。

### ウ) カメラトラップ

林内に複数台のセンサーカメラを設置し、撮影されたシカの撮影回数からシカの行動を把握する方法です。シカの撮影頻度が高いセンサーカメラ周辺で、わなによる捕獲を実施する場合に活用が見込めます。

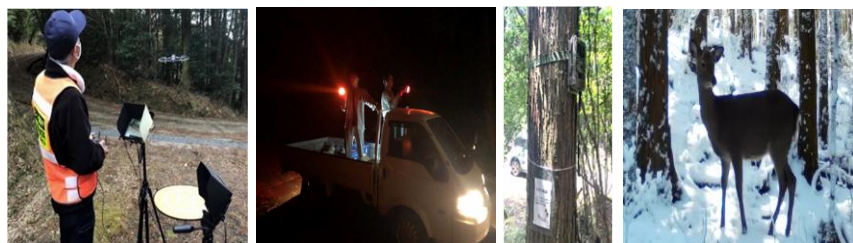


写真 左側より空中センサス、ライトセンサス、カメラトラップ、シカ撮影画像（カメラトラップ）

図-1 試験地（水俣市湯出、猿渡）

### ③ シャカインの雄花着花性に関する研究

近年、スギ花粉症が社会的に大きな問題となっています。スギ花粉発生源への対策が求められており、花粉の少ない品種や系統（以下、「花粉症対策品種」という。）を植栽することで、花粉飛散量を減らす取組みを行っています。

この品種の一つである県下益城1号は、県が平成28年度(2016年度)に花粉症対策品種（低花粉）として認定しています。県内の流通に限り、花粉症対策品種として取り扱うことができますが、さらに、国指定の花粉症対策品種として登録を目指し、令和2年度(2020年度)から雄花着花性（雄花の着き具合）の調査を開始しています。

次年度以降も調査を継続し、調査結果をもとに県下益城1号の雄花着花性を総合的に判定していく予定です。



写真1 スギ雄花



写真2 雄花着花性調査状況

## **(9) 林業研究グループ等育成対策事業**

森林を適切に管理・整備し、公益的機能の維持増進を図るためには、地域の森林を自ら守り育てる人材の育成が重要です。

この事業では、くまもと林業大学の「自伐林家育成コース」等として、山村集落の活力を高めるための新たな山村を支える担い手（自伐林家等）の発掘・育成を図り、併せて地域における指導者（リーダー）である林業研究グループ等の活動を支援しています。

### **○令和2年度（2020年度）の実績**

地域リーダー（林研グループ会員）が「指導者の心得や指導方法等」を学ぶ指導者養成講座については5名の参加がありました。これから森づくりを始めたいという初心者の方が「林業の基礎知識等」を学ぶ基礎講座については、4回開催し、計20名の参加がありました。



指導者養成講座（現地実習）



指導者養成講座（マニュアル作成実習）



基礎講座（安全に関する座学）



基礎講座（チェーンソー操作実習）



## (10) くまもと林業大学校人財づくり事業（公開講座）

熊本県内の森林資源が成熟する中、木を伐って、植えて、さらに育てていくための人材の育成・確保が重要です。

そこで熊本県では、平成31年（2019年）4月に「くまもと林業大学校」を開校し、林業に必要な技術と現場力を兼ね備えた即戦力となる人材の育成、そして意欲と能力のある林業経営者を養成することにより、次世代をリードする林業担い手の育成・確保を図っています。

その中で、一般の方を対象に、森林の公益的機能の普及啓発を図り熊本の森林・林業に魅力と親しみを感じていただくため、公開講座において竹細工体験・ワーキングデスクづくり等を行いました。

### ○令和2年度（2020年度）の実績

講座の内容	参加人数等
竹細工体験	1回 5人
くまもと森林・林業ツアー	1回 6人
チェーンソーの整備及び使用方法	1回 3人
ミニ門松づくり	1回 5人
ワーキングデスクづくり	1回 5人



竹細工体験



くまもと森林・林業ツアー



ミニ門松づくり



ワーキングデスクづくり

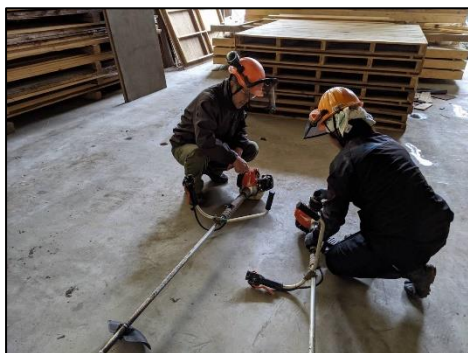
## **(11) 地域の森を育てる担い手育成支援事業**

豊かな森林を確実に次の世代に引き継いでいくためには、自伐林家などの地域の森を守り育てる方々が、計画的・継続的に森林整備の活動を行っていただけるよう、将来にわたる活動の継続を見据えた支援が必要です。

この事業では、林業研究グループや林業者等の組織する団体が、所有林と併せて他者の森林を対象に森林整備を行う場合、森づくり計画の策定に要する経費や公益的機能の維持増進を目的とした森林整備研修、林業機械の導入に要する経費に対して助成を行っています。

### **○令和2年度（2020年度）の実績**

支援の内容	参加人数等
森づくり計画の策定	3地区
林業機械導入（購入）	3地区
林業機械導入（レンタル）	1地区



刈払機を使った作業講習



森林整備研修

## 2 県民全体で森に触れ、親しみ、支え、森の恵みを活かす意識づくり

県民の皆さまによる森づくり活動の支援、次世代を担う子どもたちへの森林環境教育、木のぬくもりや香りに親しむ環境づくり、県産木材を活用した景観づくりなどを通じて、森林の果たす役割やその重要性についての普及啓発を行っています。

### (1) 県民の未来につなぐ森づくり事業

この事業では、森林の役割や重要性への県民の皆さまの理解向上や、森づくり活動への支援等を推進することで、県民全体で森林に触れ親しみ、守り育てるという意識の醸成を図っています。

#### ① 県民みんなによる森づくり活動の支援

森林ボランティア団体等による植栽や間伐などの森づくり活動や、森林環境学習などの森づくりにつながる活動を推進するとともに、ボランティア活動内容の多様化に対応するため、自らのアイデアによる県民応募型活動を支援しています。

また、学校教育の場において体験的な森林環境教育が実践できるように、学校林など活用拠点の整備を支援するとともに、児童・生徒を対象にした間伐、下刈り等の森づくり活動体験や、自然観察、木工教室などの森林環境教育を支援しています。

#### ○令和2年度（2020年度）の実績

森林ボランティア9団体により、植栽約2.20ha、下刈り約4.49ha等の森づくり活動が行われ、計677人の参加がありました。また、県民応募型活動としては、シイタケ駒打ちや自然観察等の森林環境教育が3団体、ベンチやプランター等の間伐材を利用した施設の作製・設置が5団体により行われ、計612人の参加がありました。

また、自然観察会や木工体験等では、726人の児童生徒や保護者等が参加し、森林への関心を深めるとともに、その役割や森林整備の重要性・必要性について学びました。

合計で2,015人が森づくりに関する活動に参加され、県民参加の森づくりに関する意識の醸成が図られました。

#### ア) 団体等による森づくり（9団体）

植 栽： 2.20ha

下 刈 り： 4.49ha

除 間 伐： 0.90ha

参加者数： 677人

イ) 県民応募型活動 (8 団体)

間伐材等を利用した施設作製及び設置 (ベンチ、花壇等) 4 団体  
森林環境教育 (木工、シイタケ駒打ち体験、植樹等) 3 団体  
青年を対象とした実施研修会の開催 1 団体 2 回  
参加者数 612 人



木製ベンチ製作



実施研修会

ウ) 学びの森活動推進

体験学習：自然観察会、椎茸栽培駒打ち、木工教室、炭焼き体験、ウォークラリー等 (7 団体)



炭焼き教室



シイタケ駒打ち体験



体験学習



自然観察会



## ②森林公園の整備・活用の支援

市町村等が整備した森林公園（ふるさとの森林、みどりの小径）を対象として、県民の皆さまがより利用しやすくなるように市町村が実施する案内板等の標識の設置、歩道や管理道の整備等の事業を支援しています。

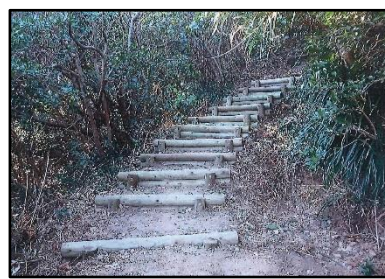
### ○令和2年度（2020年度）の実績

熊本市の立田山憩の森をはじめ、県内12市町村で公園内の森林整備や遊歩道の整備等を行いました。

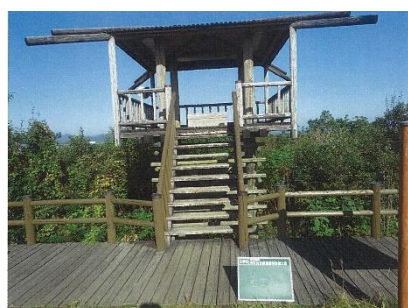
#### ア) 森林公園の整備・機能充実

「ふるさとの森林」及び「みどりの小径」として県が認定した森林公園を対象に市町村が実施する次の事業を支援しています。

- ・ 森林整備（植栽、下刈、除間伐、枝打ち）
- ・ 路網整備（歩道又は作業道の開設・補修）
- ・ 標識類整備（樹名板、標識及び案内板の設置・補修、パンフレット類の作成等）
- ・ 休憩施設（木製東屋、木製ベンチ及び木製テーブル等の設置・補修）
- ・ 安全防護施設（木製防護柵及び階段工等の設置・補修）
- ・ 利便性向上施設（簡易トイレ及び給排水施設等の設置・補修）



遊歩道の整備状況



展望台の改修状況

### ③森林環境教育等の支援

県内各地の森林公園等を利用した森林自然観察・体験教室や親子で学べる立田山森林教室の開催等、県民のみなさんが森とふれあい、森を知る機会を提供しています。

また、森林インストラクター養成事業にも取り組んでいます。

#### ○令和2年度（2020年度）の実績

県民の皆さまに森林に親しんでいただくことを目的に、県内各地の森林で「森林自然観察・体験教室」を7回開催し、延べ236人の参加がありました。

あわせて、熊本市内の立田山と雁回山では交互に「森林ガイド」を10回開催し、延べ419人の参加がありました。

参加された方からは、「解説・説明が面白く、知らない植物にも出会えて勉強になった」、「森林浴を体験できリフレッシュできた」などの意見をいただき、森林や自然環境への理解を深めていただくことができました。

また、11月第2日曜日は「九州森林の日」となっており、毎年熊本県では「くまもと森づくり活動の日」としてイベントを開催しています。令和2年度（2020年度）は熊本県林業研究・研修センターで開催し、500人の参加者がありました。

加えて、森林インストラクターは「森の案内人」と呼ばれ、自然観察や体験活動を通して、森林の機能や恩恵を森林利用者に普及させる役割を担っています。令和2年度（2020年度）は、養成講座を修了した5人に修了証を交付しました。この5人は1年間のインターン活動を経て、熊本県森林インストラクターとして認定される予定です。



自然観察・体験教室の状況



森林ガイドの状況





くまもと森づくり活動の日の状況

#### ④森林ボランティア等の活動支援

熊本県では、森林ボランティアの活動に関する総合窓口として「森づくりボランティアネット」を設置しています。森林ボランティア団体などの県民の皆さまへの情報提供や相談の受付、現地指導、必要な資材の貸出、技術研修会などを行い、森林ボランティアの活動を総合的に支援しています。

また、企業等の森づくりを促進するため、社会貢献や環境問題に取り組まれる企業等からの相談の受付、意見の調整なども行っています。

#### ○令和2年度（2020年度）の実績

森林ボランティア等に関する相談を24件受け付け、現地指導を1回行いました。また、森づくり活動に必要な鎌や鉋等の貸出を26回行いました。

さらに、研修会や活動報告交流会を5回開催し、479人の参加がありました。

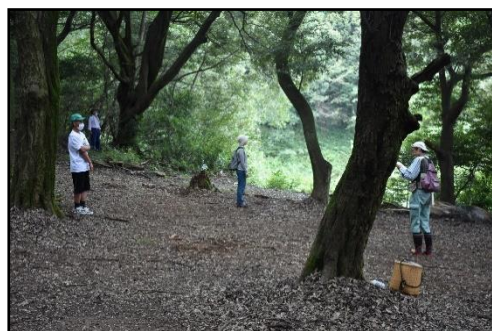
現在、森林ボランティアに取り組んでいる登録団体は65団体があり、県民参加の森づくりにご協力いただいています。



リーダー研修会：特殊伐採見学



初心者研修会：間伐体験



初心者研修：森林浴体験



活動報告交流会



## (2) 県民の森林づくり緊急整備事業

多くの県民が利用する森林公園である「立田山憩の森」では、施設の老朽化等による損傷もみられ、安全性・利便性の向上が必要になっています。

そこで、この事業では、県民の皆さまが安心して森林に触れ、親しむ環境の整備を進めています。

なお、本体工事の着工は令和3年度（2021年度）を予定しております。

### ○令和2年度（2020年度）の実績

内容	実績
トイレ、バリアフリー歩道の測量設計	2箇所



トイレ 完成予想図



トイレ 完成予想図



トイレ 完成予想図



バリアフリー歩道 開設予定箇所

### (3) 漁民の森づくり事業

この事業では、漁業関係団体等が実施する森づくり活動への支援を行うことにより、川上と川下が連携した県民参加の森づくりへの意識醸成と、公益的機能の維持増進が発揮される森づくりの推進を図っています。

#### ○令和2年度（2020年度）の実績

内容	団体数	規模	参加人数
植栽、下草刈り等の森づくり	5団体	12.8ha	766人
海岸清掃	16団体	50.0km <sup>2</sup>	563人



下草刈り



植栽

#### (4) 水とみどりの森づくり税PR事業

この事業では、広く県民の皆さまに森林の役割や重要性に対する認識や関心を深めていただき、税や税事業の必要性、使途、効果等を理解していただくため、新聞広告やPRイベント等を活用し、広報活動を行っています。

#### ○令和2年度（2020年度）の実績

事業内容	実績
新聞広告掲載（主要5紙）	1回
PR用パンフレットの作成	1回
市町村・森林組合の広報誌への掲載	随時



**「森林」は県民共有の大切な財産です**

森林は、私たちの命や暮らしを支えています。木材やきのこを生産するだけでなく、私たちが生きていくに欠かせない水や森林が育んだ命です。また、自然災害の防止や地球温暖化の緩和、生活圏や生態系の保護など、目に見えない働きももっています。これらは森林の公益的機能と呼ばれるものです。

水を蓄える、災害を防ぐ、生活圏を守る、生態系を守る、木材を生産する

**森林の持つ公益的機能**

**現状**

一方で、過剰な高齢化による所有者不足、木材価格の低迷による経営困難などの影響が行き届かない森林が増加しており、公益的機能の低下が危惧されています。

そこで、熊本県では、森林の公益的機能を維持・増進するため、平成17年度(2005年)から、「熊本県水とみどりの森づくり税」を導入しています。また、5年ごとに社会貢献課税の税率などを決め、使いみちなどを規定しています。

県民共有の財産として健全な森林を守り育て、次の世代に引き継いでいくために、広く県民の皆さんから年間500円(個人)をお預かりして、さまざまな施策に活用しています。

**「水とみどりの森づくり税」の仕組み**

課税方式：累進制（個人・法人） 納税額に応じた課税方式

自営業者等、給与所得者、法人

納税額：年額500円、年額500円、所得額×5%

市町村、県

収支内訳(円)：納付額×10%

PR用パンフレット（抜粋）

**熊本県からのお知らせ** (問い合わせ先) 森林整備課 TEL.096-333-2438

**水とみどりの森づくり税** みんなの協力で森が守られているモン

～くらしを支える森林を守り育てる取り組みのご紹介～

森林は、水を蓄え災害を防ぐなどのほたらきによって、私たちのくらしを支えている県民共有の大切な財産です。県では、この大切な森林を守り育て、次の世代に引き継いでいくために、「水とみどりの森づくり税」を活用し、さまざまな取り組みを進めています。その主な取り組みについてご紹介します。

**1 水源かん養機能などを発揮するための森林づくり**

■水を蓄え災害を防ぐことができる健全な森林を次の世代に引き継ぐため、植林や間伐などを進めています。

■健全な森林が維持されるよう、森林の所有や管理に関する相談や情報提供、気象ある指い子の紹介などに積極的に取り組んでいます。

■森林に被害を及ぼすシカの侵入を防止するためのネット設置などを進めています。

**2 森林の重要性を伝え、森林を守り育てるための担い手の育成**

■森づくりを課題から学ぶ講座や、自分の山で体験から学ぶまでを行う自伐林業を推進する「自伐林業推進事業」の研修を開催し、地域の森林を守り育てるリーダーを育成しています。

■植林・間伐・海岸清掃などの市民の皆さんによる活動や、子どもたちの森林環境教育を支援し、森林の重要性を理解していただく取り組みを進めています。

**3 森林や木材を生かした地域・貢献づくり**

■県産木材を活用した建築物などの販路による貢献づくりの取り組みや、森林公園の運営、森林公園の整備などの整備を支援し、森林の楽しみを生かした地域づくりを進めています。

■学校などへの水廻りの机・椅子の導入や、小中学生向けの読本配布などを進じ、子どもたちが木に親しみ、木とふれあうための取り組みを進めています。

新聞広告



## (5) くまもとの木と親しむ環境推進事業

熊本県では、多くの県民の皆さま、特に次世代を担う子どもたちに、「伐って、使って、植えて、育てる」という森林資源の循環利用が、多様で豊かな森林を未来に繋ぐことを理解し、木材を身近に感じていただくため、木の温もりや香りに親しむ環境を提供しています。

### ○令和2年度（2020年度）の実績

#### ①くまもとの木製遊具推進事業

幼稚園や保育所、県内で開催されるイベント等に県産材で作った木製遊具を貸し出すとともに、木育プログラムを実施しました。

内容	実績
木製遊具の貸出	38回
木育プログラム	3回



木の迷路



ヒノキの棒プール

#### ②木とともに育つ環境整備事業

幼稚園・保育所等において、県産材を使用した木製の机、椅子、棚等を購入する際の経費の一部を助成しました。

内容	実績
施設数	23施設

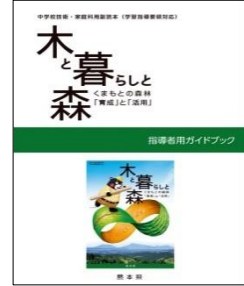
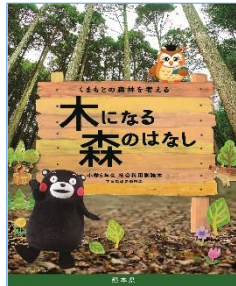


保育所に導入された木製机・椅子

### ③くまもとの木で育む教育推進事業

#### ア) 副読本の作成・提供

義務教育課程における木育推進のため、小学5年生社会科用及び中学校技術・家庭科用の副読本を作成し、県内すべての小中学校等へ提供しました。



小学5年生社会科用副読本とガイドブック

中学校技術・家庭科用副読本とガイドブック

内容	実績
副読本提供児童生徒数	(小学5年生) 約18,000人 (中学1年生) 約18,000人
ガイドブック(教師用)提供数	512校

#### イ) 木育インストラクターの養成講座

木育に関心を持つ県民の方を対象に、木育インストラクター養成講座(初級・中級・上級 計3回)を実施し、受講者を熊本県木育インストラクターとして知事認定しました。

内容	実績
認定者数	31人
累計(H24~)	315人



養成講座(上級)認定証

#### ウ) もっと木育! ~くまもと木育のつどい~ の開催

木育インストラクターなど木育に関心と意欲がある個人・団体が一堂に会し、情報及び意見交換を行う「木育のつどい」を開催しました。

内容	実績
参加者数	51人



木育のつどいの様子

#### ④くまもとの木とふれあう木育推進事業

県内各地域で木育活動を行う団体に対して、活動経費の一部を助成しました。

内容	実績
実施団体数	12団体



助成を行ったイベントの様子

## **(6) 木を活かした景観づくり事業**

この事業では、多くの県民の皆さまが利用、または目に触れる公共的空間（観光地や商店街など）に、県産木材を活用した建築物や案内板、外構、ベンチ等の施設の設置又は補修をすることにより、実施地域における一定の広がりのある統一空間（町並み、自然、歴史及び文化的空間）の形成を図る活動への支援を行っています。

### **○令和2年度（2020年度）の実績**

県下6市町（熊本市、人吉市、山鹿市、阿蘇市、小国町、山都町）の13団体がベンチ、看板、案内板等に県産木材を活用し整備することで、統一景観づくりを行いました。





## (7) 特用林産物流通促進事業

この事業では、熊本の森づくりを支えるシイタケをはじめとする森の恵みの普及促進を行うことによって、県民の皆さまに森林に親しんでいただくよう情報の発信を行っています。

### ○令和2年度(2020年度)の実績

森の恵みである特用林産物に関するリーフレットやポスターを作成し、SNSや商業施設、キャンプ場を通じて広く情報を発信しました。

内容	実績
特用林産物をPRするための情報発信	41箇所

**山ほどの幸せを。森の贅沢、いただきます。**

たけのこ、しいたけ、竹炭、竹工

熊本県特用林産物振興会 熊本の森を守ります。

096-328-1153

**熊本県産原木椎茸**

自然の恵み、天然の食材を毎日の食卓へ

熊本県・熊本県特用林産物振興会 熊本県椎茸農業協同組合

096-380-3300

**JAグループ熊本 熊本県産たけのこ**

食の安全・安心を取り組み、消費者は信頼される産地づくりを目指しています。

096-328-1153

**熊本県竹産業振興会**

日本の「技」、竹工芸

熊本県・熊本県特用林産物振興会

096-328-1153

**熊本県産木炭・竹炭**

熊本県・熊本県特用林産物振興会

096-37-4004